

専大とともに 神田神保町探索

1

創立130年を迎える専修大学。神田キャンパス周辺の神田神保町は、古くから「本の街」として知られ、個性派のスポットや飲食店も多い。そんな界隈の魅力的なお店をご紹介します。題して「専大とともに」神田神保町探索」。



▲ 店主の野田京子さん

松雲堂書店は、神田神保町古書店街の西のはずれ、「専修大学前」交差点すぐそばにある。店内には漢籍・和書が、中央の棚と両面の壁を見えなくするほど平積みされている。そこに一歩踏み入ると、滋味豊かな古書の香りに包まれた漢籍の世界が広がり、思わず一書、手に取ってみたいくなる。



▲ 店頭にも古書が積まれ... 店頭に古書が積み、都千代田区神田神保町3の1、☎FAX 03(33261)6498

松雲堂書店

女性店主が切り盛り あふれる漢籍の滋味

創業は1900(明治33)年。店主の野田京子さんは2代目義太郎氏夫人で、90年、同氏の急死により店を引き継ぐことになった。「娘(初香さん、瑞奈さん)や同業者の皆さんに支えられました」。初代・文之助氏からの漢籍一筋の伝統を守る。なかでも充実しているのは漢詩関連書だ。和綴じの紐を結び直し、虫食い本には裏打ちをほどこすなど細やかな仕事も評判だ。出版事業も行っており『詩語集成』『詩語辞典』の両辞書は、詩作になくはならない同店の隠れたベストセラー。

「漢詩は奥深さが魅力。ここに来ると世界が広がります」とは、漢文を広める運動をする埼玉県の中学校教諭、小金澤豊さん。店舗の上が住まいになっている。60年代、「朝、窓を開け、専大(旧校舎)の大きな時計で時刻を確認するのが習慣でした」と京子さん。

日本センターで研修

小林 夏季さん(経済4)



▲ “托鉢”体験中の小林さん(右)

ラオスの首都ビエンチャンにあるラオス日本センター(国際協力機構JICA)のラオス日本府組織)活動を視察。実に出になった」と言う。同国は60、70年代のベトナム戦争の影響を受け、ビエンチャンに住む現代の若者の生活や考え方に触れた。

ラオスで各国のNGO活動調査

を受け入れるのは、米軍が落とされた。小林さんで2人。夏、ラオス、タイの海外特別研修(指導・飯沼健子准教授)に参加、国際事業や政府・国際機関などでラオスに、農村部の人々と交流

で学んだ開発経済の知識を基に、諸活動の目的や展望を調査した。施設内にある同センター「開発協力には効果的

スカッシュ・日本一を目指して

全日本アンダー23選手権で初優勝

河野 文平さん(法4)



法学部4年次の河野文平さんは、6月に行われた第20回全日本アンダー23スカッシュ選手権で見事初優勝を果たした(前回出場時は2位)。



▶ 試合中の河野さん

2016年オリンピックの新競技候補になっているスカッシュは、相手の心理を読み、常に先の戦法を考え、瞬時に壁へ

地域の課題を解決するインターンシップ

川崎市と連携して、キャリアデザインセンターが実施している課題解決型インターンシップ

に参加している商学部の神原理ゼミと前川明彦ゼミから、活動レポートが届いた。

ユニバーサルファッションを普及させるには？

● 神原ゼミ(商3・江川 典宏)

神原理ゼミは「ユニバーサルファッションの普及活動」をテーマに、9人がアンソニエCHACOでインターンシップを始め、「多摩ふれあい祭り」の中でユニバーサルファッションショーなどの身体に不自由のある方が着る服を健常者の服と同じようにおしゃべりな服にすると共に、

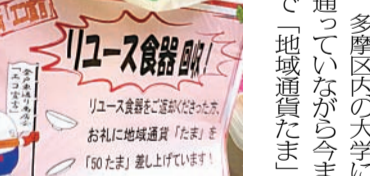


今回の目的は、来場した地域の方々の反応にじかに触れ、「ユニバーサルファッション」の認知度がどれほどなのか知ろうというもので、チラシを配ったお客さんに「これは何ですか?」と聞かれることも多く、認知度が低いという現状を知ることになった。小さなイベントではあるが、こうしたことを積み重ねて

「地域通貨」を利用して活性化を目指す

● 前川ゼミ(商3・割栢 靖謙)

前川明彦ゼミは、多摩区内のシブのチラシで初めてその存在を知った私たち。地域の人々を繋ぐためのツールとして07年10月にスタートした「地域通貨」の活動に参加している。なかでは、6月20日に行われた「登戸東通り商店街ナイト」で、地域再生やまちづくりを学んでいるため、地域通貨を「ツール」に参加した。



ともあり、イベントでは、マイ食器やリユース食器を使用することで「たま」がもたらせる仕組みに、もたらした「たま」は、子どもたちに人気のゲームコーナーで使うことができ、エコの意識を高めながら「たま」を広く知らせるようになっていった。